

2021年6月

1、本園の教育目標

キリスト教精神を土台とした人間教育を目的としており、乳幼児期における健全な心身、宗教的情操、隣人愛等の育成に重点をおいている

- 1、生涯の土台作りのために、いろいろな実際体験を保育に取り入れる。
- 2、一人ひとりの人格を大切に、心の行き届いた保育をする。
- 3、豊かな心、信頼の心、感謝の心、意欲的な心の土台を育てる。
- 4、神様からいただいた身体を大切にすることを育てる。
- 5、友だちと共に生活することに喜びを持つ心を育てる。
- 6、自分からあそびに取り組んだり、自主的に活動できるように援助する。
- 7、家庭と園の協力を大切に、保護者と保育教諭が協力しあう。

2、本年度重点的に取り組む目標・計画

- ① キリスト教保育の指針に基づき、神様からいただいた自分の身体を自分自身が愛し、大切にすることができるように、そして、自分と同じように、他の友だちの身体も大切にできるようになるためにはどのような大人の関わりが必要なのかを新しく取り入れる研修の中で学ぶ。
- ② 発達に添った生（性）に関する教育プログラムの実施をする。保育士も同様に幼児期における性的関心と行動の理解を深めるための学びをする。
- ③ 子どもの健やかな育ちを保障するために、乳幼児理解を深めていくことが必要と考える。そのために、それぞれの保育士がテーマを設定し1年間を通して学び園内研修を通して語り合い、子ども理解を広げ保育計画等に組み入れる。

3、評価によりみえてきた主な課題とその取組み方法

評価項目	努力点・改善点	具体的な取組み方法
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分で好きなあそびを選び、楽しみ、自由に考え表現できるように、年齢や発達に応じたあそびの環境を工夫し、提供することができた。子どもから出るアイデアに学びがあった。 ・多忙な時期には園内の環境を整えることが疎かになる時もあり、一人ひとりの意識が必要だった。 ・コロナ禍で、除菌や消毒、換気は常に意識して行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの環境を整えるため、話し合う時間を計画的に取り入れ、アイデアを出し合い実施することはできたので、さらに子どもの遊びの様子をよく観察し、子どもたちの興味関心を満たし、感性を引き出せる環境整備を心掛けていく。 ・園全体が常に気持ちの良い空間であるように、職員一人ひとりが意識を持ち、環境を整えていく。 ・引き続き、子どもたちと共に感染予防対策を行い、日頃の生活の中で感染症について理解を深めていく。
資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、研修会を受ける機会が減ったが、WEB研修になったことで、多くの職員と同じ研修を受け共有することができ、とても良かった。 ・個人で取り組んだ園内研修は、それぞれが課題としている興味ある内容でレポートを作成し発表した。そのことで、一人ひとりが何を大切に思い保育をしているのか気付き、その後の保育に生かすことができた。 ・月に1回、牧師による聖書の学びを通して、聖書に触れ、学ぶことができた。職員みんなが参加できたので、学びを共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度もWEB研修を中心に研修が行われていくと思うので、質の良い研修を選び、なるべく多くの職員が研修を受けることができるよう体制を整えていく。 ・2021年度は、学年で研修目的を決め、研修に取り組むので、昨年度と同様、それぞれの学びが保育に生かされていき、また、園全体で学び合う機会を持てることと期待する。 ・コロナ禍で、今までとは違った内容の研修も必要になると感じる。キリスト教精神を土台に据え、神様からいただいた心と体を大切にするために、今、子どもたちに身につけてほしい力とは何なのかを職員も学んでいく。 ・専門性を高めるための研修に積極的に参加し、職員全体で取り組めるようにする。
保育計画 ・ 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週案で活動内容や子どもの様子を伝えあうことができたので、時間を有効に使い準備することができた。また、新しい活動を計画して挑戦することもでき、新鮮さを持つことができた。 ・子どもの表情やしぐさなど気を付けてみていき、肯定的な声掛けを心掛けたことで信頼関係を深められた。 ・コロナ禍で行事が中止や変更になることがあったが、話し合いながら進めていくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、週案作成、リスクマネジメント委員会、給食委員会などの必要性の高い会議は、確実に行うことができ、情報も共有できた。学年の話し合いについては以上児クラスは計画しやすいが、未満児クラスにおいては学年の担任全員が子どもから離れることが難しいことが多く、時間確保が難しい状況にあったので、情報共有のため、時間の確保のための工夫をしていく。 ・先が見通せない状況にあるが、保護者にも子どもの成長が見える方法を考え工夫していく。
保護者 地域連携 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で行事も減り、門扉での受け渡しになったため、保護者と直接会って、話をする機会が減ったが、その分連絡帳のやり取りを大切にされた。 ・コロナ対応で行事の縮小、削減があったため、保護者が直接子どもの様子を見る機会が減り、子どもの成長の様子が伝わりにくかった。また、それに代わる情報の発信がうまくできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍だからこそ、保護者の気持ちを受け止め、子どもの成長のために、情報の発信を細かくしていく工夫をし、園と保護者が共通認識を持ち、同じ方向を向き、安心して子育てができるような関係性を築いていきたい。 ・子育て支援においては、人数制限等の感染防止対策を取りながら、地域で子育てをしている母親の居場所となり、安心して相談できる場所となるよう、努力して実施する。

<p>職員間のコミュニケーション</p>	<p>・昨年度に引き続き、職員会、リーダー会、学年の話し合い等定期的に計画をし、実施したため、学年の職員間の情報共有ができ、話し合った内容がプリント化されたので、共通理解ができ良かった。</p> <p>・以上児、未満児の職員が助け合うことができた。それぞれの時間の空き具合が違うため、お互い必要な時に声を掛け合った。</p> <p>・レクレーション系の推進により、職員間の親睦が図れるようなイベントを計画し、コロナ禍でも職員の交流が図れる工夫をした。</p>	<p>・職員のコミュニケーションを図るため、共通認識の必要性に重きを置き、改善していったところ、全体的に、話し合いがもたれ、必要な連絡事項や保育方針など、皆が共有することができ、良い関係性ができてきたので、引き続き実施していく。</p> <p>・幼児クラス、乳児クラスの生活リズムの違いがあり、職員の動きにも違いがある。そこで、職員の直接保育時間と間接保育時間を有効に活用するためのマネジメントを今後も工夫する。</p> <p>・感染防止のため、職員間の交流を図る手立てが限られてくるが、その中で、できることを考え、アイデアを出しあって親睦を深めていきたい。</p>
----------------------	---	---

4、総合的な評価結果

<p>新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の中でできる最善の保育を職員と考え歩んだ2020年度だった。まずは、子どもと大人の命を守るため、保護者の理解を得ながら、園独自の感染予防対策の基準を作り、その基準に従って行事の見直しをし、実施方法を職員の意見交換や話し合いを通し決めていった。何を大切にしたい行事なのかを考え直す良いきっかけとなり、新しい方法も見いだす良い機会となった。また、感染防止対策で園敷地内入場制限等の為、保護者とのコミュニケーションが取りづらい状況となり、園や子どもの様子が保護者に伝わりにくかったため、情報発信していく手立てを工夫する必要があった。</p> <p>前年度から、重点的に取り組んできた乳幼児期における生（性）に関する教育プログラムを引き続き行った。また、乳幼児の理解を深めるため、それぞれが課題を持ち園内研修に取り組んだ。その中で、小城ルーテルこども園が大切にしていく保育の在り方（皆同じように神様に愛されている存在として、一人ひとりを理解し、個々にあった援助をし肯定的に、丁寧に関わっていく）を皆で再確認していくことができ、2021年度も意識して保育を行っている。</p> <p>特別な支援が必要な子どもも増えてきている状況である。家庭や関係機関との連携を図りながら、一人の保育者で対応するのではなく、園全体で見守るようにし、個別の支援計画を作成し支援にあたり、その子が認められながら、他児とのかかわりの中で成長していけることを大切に捉え、対応している。今後も専門的学びをしながら、ユニバーサルな考えを深めていきたい。</p>

5、今後の取り組むべき課題

課題	取り組み方法
<p>コロナ禍における適切な保育活動を探り求め実践する</p>	<p>キリスト教保育の指針に基づき、神様からいただいた自分の身体を大切にすることができるようになるために、新型コロナウイルス感染症による乳幼児の心身の育ちへの影響を研究し、保育者の適切なかわりを学ぶ。</p>
<p>保護者や、地域への情報公開と情報発信</p>	<p>園の教育方針や大切にしていることや、保育内容が保護者や地域の方に伝わるには、どのような情報の発信をすればよいのか、方法を考えていく。コロナ禍で日頃の子どもの様子や活動内容などの発信もICT活用など、工夫しながら発信していけるよう努力する。</p>
<p>特別支援の推進と子育て支援の充実</p>	<p>一人ひとりの子どもの多様性や個性を包み込む教育、保育を目指し、保育環境や指導の改善を進める。</p> <p>子ども、子育て支援の拠点として、地域の子育て中の親子が安心して集うことができる親子の集いの場を提供し、相談等の機能を果たせるように内容を充実させていく。</p> <p>(サークルドレミの充実)</p>

5、学校関係者の評価

<p>★それぞれの評価からみえてきた課題を細かく分析し、保育教育に生かしていこうという思いが伝わってきました。コロナ禍の中、新しい取り組みや課題もあり、大変だったと思います。職員間のコミュニケーション、信頼関係は大切なことだと思います。そこにも取り組まれていて、そのことが保育にも繋がっていくことと思います。</p> <p>★こども園はひとりひとりの「人生のはじまり」の時期を見守り教育をしていただく大切な機関です。夫々の子どもの特性感性が芽を出します。先生方も研修を受けキリスト教精神を土台とした人間教育をしてもらい、保護者も安心してお願いしておられると思います。良い事悪いことがしっかり判断できること、大きくなって自分で考え自分で行動する意欲のある人がこれから、ますます必要になってくると思います。土台をつくる教育をお願いします。</p> <p>★「人を思いやる心の教育」「見えないものに目を注ぐ心」「命の尊さを感じる心」を育てる教育は生き方で一番大切なことです。ルーテルこども園の乳幼児教育に感謝します。</p> <p>★新型コロナ感染予防に十分気を付けていただいております。今後共しっかりお願いします。病気感染予防の考え方も一段とレベルアップしてきたと感じます。</p> <p>★世の中の変化に順応しようと努力される姿に感銘を受けました。まだまだ進化するんだなど、希望と期待を持ちました。</p> <p>★コロナ禍で園の行事が中止や変更になったり、先生方の研修会が減って、WEB研修になったりいろいろと製菓の中大変だったと思いますが、子どもたちのために頑張ってください。今のコロナ禍だからこそいろいろな知恵を出して保護者とのコミュニケーションをしっかりとってください。保護者の理解はこのような状況の中ではとても大切だと思います。</p>
--

6、財務状況

<p>公認会計士監査により、園の運営、財務管理は適正に行われていると認められています。 (公認会計士 藤崎 武 公認会計士 坂田 達哉)</p> <p style="text-align: right;">監事 井場 和子 監事 山本 康徳</p>
--